進め！山田町 復興ニュース

槌音（つちおと）

仮設店舗の建設が続く町中心部の様子（平成24年３月11日）

高台移転へ向け復興整備事業がスタート

３月２日、町は復興計画の高台移転事業について、独立行政法人都市再生機構（小川忠男（ただお）理事長）と事業化に向けた着手式を行い、復興整備事業をスタートさせました。

織笠コミュニティセンターで行われた着手式では、織笠小学校６年の湊安里（あんり）さんが「未来へのメッセージ」と題し、復興へ込めた思いを作文で発表しました（３ページに掲載）。その後、沼崎町長と小川理事長が協定書に調印。地質調査を行うボーリング機械を始動させました。

この地質調査は、約４４０戸が移転対象の織笠地区で、織笠小と山田中の間の候補地約13ヘクタールのうち５カ所について、移転先に適切かどうかを調査するために行うものです。また、調印した協定書には同地区のほか、大沢地区、柳沢・北浜地区、山田地区の復興整備事業も含まれています。なお、他地区については、町の直接施工の予定です。

同機構は、復興整備事業で岩手、宮城、福島の被災３県17市町村に職員74人を派遣、新年度には新たに１００人前後を追加して復興事業を支援します。本町には２人の職員が派遣されていますが、これらの自治体で事業に着手したのは本町が初めて。町と同機構は14年度後半から一部での住宅建設を目指します。

沼崎町長は「復興に向けた、槌音を響かせることができ、励みになる」と歓迎しました。

「命の道路」全線開通へ

３月15日、船越地区のロータリーの森で、三陸沿岸道路釜石山田道路の用地幅杭設置式が行われました。昨年12月27日の山田・豊間根間の中心杭設置式に続いて、三陸沿岸道路全線開通へ向けて前進しました。

三陸沿岸道路は、青森県、岩手県、宮城県の太平洋沿岸地域を通過し、被災地の早期の復興を図る延長約３６０キロメートルおよぶ自動車専用道路です。

現在開通している山田道路は、震災時に物資の輸送や救急搬送などに利用されたことから「命の道路」と呼ばれています。全線が開通すれば、国道45号線の交通混雑の緩和や地域間交流の促進、地域振興や救急医療などの防災ネットワークの形成により、三陸沿岸地域の発展を支援する道路となります。

町では新たに推進室を設け、早期実現へと動き出します。

北海道池田町と災害相互応援協定を結び連携強化

町では、3月17日に北海道池田町（勝井勝丸町長）と災害時における災害相互協定を締結しました。

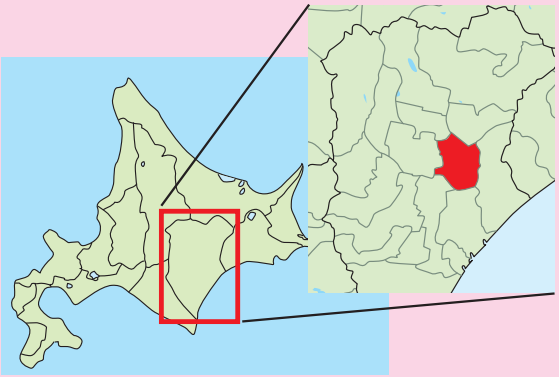
災害が発生したときに被災した町に食料や医療資材などの応急対策や被災者を一時的に受け入れる施設提供や職員の派遣などの災害復旧対策を円滑に行うため、相互に応援体制について定めたこの協定は、秋田県仙北市（門脇光浩市長）に次いで当町2番目の締結になります。

調印式は、北海道池田町の池田町役場で行われ、沼崎町長と勝井町長が協定書に調印し、相互の応援体制について築き上げていくと約束しました。

池田町が職員派遣などの支援を行ったことが縁で実現した今回の協定締結に沼崎喜一町長は「千年に一度の大災害は予測できない。そのときは、お互い対応し合いましょう」と呼び掛け、勝井町長も「池田町も何度も地震に見舞われている。いつどんな災害が起こりうるか分からない。山田の復興から学ぶことを今後の備えとしたい」と述べました。

災害時の体制強化に力強い握手を交わす沼崎町長と勝井町長

北海道池田町ってどんなところ？



北海道池田町は、北海道十勝平野の中央やや東寄りに位置しています。山岳地帯でも海抜100mから200mを超えるほどで広大な土地が広がっています。町営でブドウ栽培・ワイン醸造を行っており、「ワインの町」として有名です。人口は、3,463世帯7,588人（平成24年２月末時点）。

未来へのメッセージ

湊　安里さん
（織笠小・現山田中１年）

平成23年3月11日、大地震と津波で山田町は大きな被害を受けました。織笠でもたくさんの人が亡くなり、たくさん家が流されました。大切な思い出を無くした人も少なくありません。とてもつらい出来事でした。学校から見下ろす織笠の風景もすっかり変わってしまいました。私たちの住み慣れた、大好きな織笠の町が消えてしまいました。

あの出来事から一年、私たちの生活は、それまでとはちがって不便なことも多かったです。けれど、私たちは、勉強や運動、音楽、遊びなど、震災前と変わらない学校生活を送ろうと工夫し、友達や家族、周りの人たちと助け合いながら頑張ってきました。全国各地からもたくさんの支援物資や激励のメッセージが送られてきました。私たちのことを心配し、一生懸命励ましてくださる人たちがたくさんいることに、私たちは元気づけられ、とてもうれしかったです。

そして、今日から復興事業が始まることを知り、いよいよ前に向かって進んでいくことができるんだと、とてもうれしく思っています。震災前の山田のように、みんなが明るく、楽しく、支え合って暮らしていける町、地震や津波に負けない強い町になってほしいです。

私たちは、まだ、小学生です。できることも限られていますが、新しい山田のために、勉強やスポーツに一生懸命取り組んだり、友達と楽しく仲良く遊んだり、今、自分ができることを頑張っていきたいです。

そして、将来、みんなと協力して山田を支えられる大人になりたいです。